

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200038		
法人名	有限会社 かもん		
事業所名	グループホーム いまざと元気村2		
所在地	奈良県大和高田市今里町19-36		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2990200038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2990200038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和5年2月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針に掲げる、認知症があってもごく普通の家庭生活をエンジョイ出来るよう…を常に意識したケアを心掛けています。入居者様も職員も一緒に毎日の散歩や行事で四季を感じながら喜怒哀楽を大事にしています。開設時よりご入居されている方、勤めている職員もおり家族のような安心感を得られるよう関係性作りにも努めています。昨年は3名様のお看取りを致しました。在宅介護の可能な限り、ご本人ご家族の要望に応えながらのお看取りとなりました。コロナ禍となり3年経過しますが、感染予防委員を中心に感染対策の徹底を行い未だ入居者様からは陽性者が出ておりません。自家農園で採れた野菜を利用した手作りの食事やおやつ、脱水予防を意識した飲水管理、散歩等「元気村」として元気に過ごしていただけるよう取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本部は紫陽花で有名な矢田寺の近くにあつて、この本部のグループホームを拠点として、当事業所も運営されている。創設者の思いがわかりやすく職員にも浸透し、温かな雰囲気でも運営されている。利用者中心の普通の生活を過ごしてほしいという思いが、一環して職員に浸透している。積極的に看取りも行い、グループホームでありながら週1回のデイケア利用を可能にしているユニークさがある。ベトナム、ネパールからの実習生を受け入れ、利用者の生活がゆったりと流れている家庭的な雰囲気の事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は表玄関に掲示し、すべての職員が常に念頭に置きながら日常の業務を行っている。	事業所の「運営方針」や「元気村とは」を玄関に掲げている。利用者に穏やかな家庭生活を送ってほしい事やその為には身体拘束はしない事などを謳っている。誰もが理解しやすい言葉で表現し、職員は日々実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が続き、外出しての行事は減少しているが、日々の散歩では挨拶を交わし、行事の機会には招待しあう交流は続いている。	事業所開所以来12年となり、地域の付き合いもできて、自治会長が時々立ち寄っている。利用者も散歩する時は住民と挨拶を交わし、去年は神興見学の誘いがあったが、コロナ禍の為、断念した。近隣の清掃活動にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	元気村便りを2か月に1回地域に回覧して頂いたり、散歩や行事への参加等で交流を図りながら理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を予定し、地域や行政の方々から意見を頂戴しサービス向上に取り組んでいる。	通常は2か月に1回運営推進会議を開催していたが、コロナ禍の為活動状況や事故報告など資料を作成して介護福祉課、地域包括支援センターや家族に送り、意見を聴くようにしている。ヒヤリハットや事故報告は具体的に記録にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課や地域包括支援センターへ出向く他、電話やメール等で連絡や報告を行い、良好な関係を築くよう努めている。	入居者の半数は生活保護利用の方なので、市の保護課、介護福祉課などと連携して支援している。最近では市の虐待防止の研修があり参加した。市へは介護保険情報など、気軽に問い合わせしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に掲げ、管理者を中心に職員に理解を深めてもらえるよう日々取り組んでいる。玄関の施錠は門扉がない為、外部からの不審者を防ぐ為に行っており、ご家族への説明はしている。	事業所が身体拘束をしないことを理念の全面に掲げている。身体拘束適正化委員会を設置して、年2回の研修している。ベッドからの転落防止の為、居室にセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や高齢者虐待防止マニュアルに基づく社内研修を年2回実施している。また行政等からの資料の提供を随時行い、虐待防止の徹底認識を職員と共有し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間計画に権利擁護制度を学ぶ機会を設けている。知識を深め、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問や質問については納得を得られるような説明を心掛けている。また入居後の問い合わせ先を明示し、管理者も対応できる体制となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会時において意見や要望を聞く機会を設けたり、外部評価アンケートから頂戴したご意見を職員とも共有し反映している。	家族の面会は昨年4月、5月は利用者の各部屋で、短時間実施した。その後は感染状況を見ながら、面会方法を工夫している。面会時に、家族の要望等を聴いている。家族会は中止している。携帯電話のラインを利用して家族と状況説明や連絡を取る方もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月研修会を行い、必ず職員全員の意見や要望を発現する機会を設け、提案する内容が反映されるよう努めている。	利用者がデイケアに出かけているときに、職員全員参加してケア会議や研修会を実施しており、じっくり意見交換をすることができる。年1回、社長は職員との個別面談を実施して意見や要望を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や他者評価を行い、年2回の人事考課のうち、1回は代表と直接面談をする機会を設けている。またキャリアパスの導入で各自が向上心を持って勤められるよう職場環境の整備に日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と判断した研修には費用面でのバックアップをし参加を勧めている。研修内容については施設内研修にて発表してもらおう等情報共有を図っている。また新人職員には一定期間担当指導者がついて不安なく勤められるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加により、交流する機会を設けておりネットワークづくりやサービスの質の向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごとや不安はないかご様子を観察しながら、無理強いすることなく、コミュニケーションをとれるよう努めている。不安を感じやすい夕方から入眠前までは時に思いを傾聴する機会を増やしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最良なサービスが提供できるよう、入居前からご家族の思いやご要望を可能な限りお聞きしている。入居初期は管理者よりこまめに連絡をし、お互いの理解を深められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の要望を確認し、管理者を中心に施設職員、主治医、ケアマネと話し合いを行い必要とされているサービスへ繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むきや選別、料理のヒント、洗濯物干しやたたみ、掃除等日常の家事を一緒に行い、暮らしをともにする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人へのご家族の思いに添うように支援し、変化があれば本人支援へ加わっていただき一緒にご本人を支えていける関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解を得たうえで、気兼ねなく話ができるよう支援しているがコロナ禍の現在では玄関先での面会やテレビ電話等の活用で対応している。	コロナ感染症対策フェーズ表を参考にして、往診医や訪問看護師だけでなく、美容師も訪問している。また、家族の面会も、状況に応じて工夫しており、現在は玄関で短期間できるよう支援している。馬見丘陵公園への花見やレクリエーションなど普段より多く実施した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんやレクリエーション時に会話が弾むよう支援している。家事手伝い等の共同作業でお互いが労い支え合える関係となれるよう職員が間を取り持つなど努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談には管理者を中心に随時対応し、情報交換や助言を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居初期にこれまでの生活歴や思いを聞き取り、人物像を把握するよう努めている。また日々のコミュニケーションの中でニーズを引き出し、その人らしい生活が送れるよう支援している。	入居時は丁寧に利用者の生活歴や趣味などを聴き、記録している。入居後に自宅訪問で再アセスメントした事もある。事業所での生活の中で分かった生活習慣や嗜好などは生活リズム表や申し送りノートに記録し、介護計画にも取り入れ職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族だけではなく入居前のケアマネ等関わられていた方にこれまでの生活歴等の情報提供をいただいている。また日々の何気ない会話や行動からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時に申し送りをすると同時に、申し送りノートや日報や記事記録、一斉メール等を活用し、職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修で担当者を中心に本人の課題を話し合い、ケアマネを中心にモニタリングを行い、ご家族の以降も聞きながら介護計画に反映している。	利用者の担当職員が中心となり、普段から本人の希望や思いを聞いて、長期には1年、短期には半年の目標で介護計画を作成している。利用者の「わたしの困りごと」「わたしの希望」を聴き、達成できるように家族やケアマネジャーとも話し合っており取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を身体面、精神面と分けて個別に記録している。毎月末に担当がアセスメントし、ケアカンファレンスにて情報共有し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況に合わせて受診支援を行い、要望や必要と判断した場合、入退院時の送迎や手続き、洗濯物などの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所や法人が持っているネットワークを活用し、一人一人に応じた支援を行えるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診時や特変が見られた場合は臨時でも随時相談し、その都度管理者よりご家族へ報告している。必要があれば受診へと繋げている。	事業所の協力医が、月2回訪問診療を行っており、利用者とも馴染みの関係になっている。協力医のサポートで、3名の方の看取りを行った。看護師が週1回の訪問しており、必要時はその都度来てくれる。整形外科や皮膚科へ通院する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師による24時間オンコール対応をしている。週に複数回は訪問も行い、小さなことでもご本人や職員が相談できる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室と入院前後より連携し、ご本人ご家族が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。病院訪問時には医師や看護師、相談員等と情報交換し良好な関係を構築するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点での思いをご家族から伺うようにしている。ご本人の思いは日々の何気ない会話から聞き取り、体調変化に合わせ、適時ご本人ご家族から思いを聞いている。必要に応じてご家族、主治医、弊社看護師、ケアマネ、管理者とのカンファレンスを行っている。	看取り指針がつくられている。看取り時期になると家族の思いを大切に、医師や看護師、職員との連携を図り、体調変化に適切に対応している。ケアマネジャーや管理者は、職員の精神的支えとなれるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会の中で定期的に応急手当や急変時の対応について話し合い、職員全員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、評価を行いながら避難方法等について話し合い、誰もが対応できるよう周知徹底している。	消防署に連絡し、年2回の避難訓練を実施している。夜間想定訓練や水消火器も体験している。オール電化設備なので、停電時に2階にソーラーパネルを設置している。普段から地域老人会に、助け合いの声掛けをしている。乾麺など1週間分の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であると考え「お手伝いをさせていただいている」という思いを常に意識しながら対応している。	利用者の尊厳を大切にし、職員や実習生も含め言葉に気を付けている。トイレ誘導や入浴時の呼びかけは、特に大きな声で呼ばないようにしている。部屋に鍵はないが、職員が入室する時は必ず声をかけて入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の症状や状態に合わせて思いを表現できる場面や時間を作り、自己決定出来るような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スタイルのペースはあるが、ペースやタイミングに合わせて無理強いはしていない。常時、臨機応変に対応できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お金の大切さはよく理解されているが、認知症状でのトラブル防止の為、原則、管理は保護者が行っている。買い物の機会等にはご自身で支払いを行っていただくなどの機会を作るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の農園で採れた野菜の選別や食事の準備、片付けは一緒に行うようにしている。職員も同じメニューを食べ、食事の楽しみを共有するようにしている。	食事は、職員が手作りしており、利用者もできる範囲で手伝っている。職員も同じ料理を食べ、家庭的な雰囲気がある。目前で作るたこ焼きやお好み焼きなども喜ばれ、巻き寿司は自分のものを作って楽しんでいる。誕生日のケーキを手作りすることがある。研修生の故国のベトナム料理を出して喜ばれたことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度把握し、健康状態に応じた適切な摂取量、栄養バランスになるよう支援している。また、脱水予防の為、管理表を元に時間を決めて適時飲み物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、支援を行っている。自分で行える方は食後自ら歯磨きを行うなど、皆さんの習慣になっている。また希望者には訪問歯科による口腔ケアも月1で受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら誘導の声かけや介助を行っている。トイレにて排泄をして頂くことの重要性を職員全員が認識し一人一人の習慣やタイミングを把握しながら支援している。	1階に3か所、2階に2か所のトイレがある。排泄チェックを1か月がひと目でわかる表をつくり、排泄支援をしている。オムツ使用者はいない。食材に野菜を多く取るようにしている。水分補給に注意し、センナ茶なども使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握をし、運動や食べ物、水分補給等の工夫をし排便困難の予防に努めている。便秘がちの方には主治医や弊社看護師に相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、タイミングは一人一人の要望や心身の状態に合わせて対応している。入浴日以外の日には足浴をする等リラックスできる時間を作っている。	入浴は基本は週2回であるが、寒い時期は入浴日以外の日には足浴をして体を温めている。入浴剤を入れて、色や香を楽しんでいる。週1回はデイケアに出かけ、大きな風呂で入浴する楽しみがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて安心して休息していただけるよう、本人の状況や好みに合わせて配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調変化に応じ医師の指示を受け看護師と調剤薬局との連携で服薬指導を受け、職員全員が服薬内容等の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味嗜好や生活歴等の背景に配慮しながら元氣村での生活にて役割を持っていただくことで生き生きとした生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で以前より機会が少なくなっているが、ご家族にも理解、協力いただきながらタイミングを見計らい外出支援を行っている。	コロナ禍の感染状況を見ながら、付近へ散歩へ出かけたり、駐車場を外気浴をして、利用者のストレスが溜まらないようにしている。昨秋には、馬見丘陵公園へコスモスやダリアの花見をしに出かけた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さはよく理解されているが、認知症状でのトラブル防止の為、原則、管理は保護者が行っている。買い物の機会等にはご自身で支払いを行っていただくなどの機会を作るよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があった場合、電話をして頂いたり、年賀状や手紙などご家族や知人とのやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんで作成したカレンダーや作品、行事の写真、季節の掲示物、花を生けるなどで季節を感じていただき居心地の良い空間作りに努めている。	リビングや廊下などに、季節を感じさせる作品や習字が飾られている。見通しの良い廊下は皆でゲームなど楽しむ場所となっている。リビングや廊下に生け花も飾られ、理念通りの家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング等、それぞれが自由に好きな場所で心地よく過ごせる場の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。ご本人にとって居心地のいい空間作りが出来るよう持ち込み物についての相談は柔軟に対応している。	居室にベッドとエアコンが備え付けられ、各自が好みの家具やタンス、机、ソファなどを持ち込んで居心地よく暮らしている。現在テレビを置いている方はいないが、携帯電話を所持している方はいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自己の能力をできる限り活かしていただけるよう、ご自分で出来ることについては介助はせず見守り、必要な介助を提供できるよう支援している。		